



令和3年11月15日
令和3年度学校だより NO.32③
加古川市立平荘小学校

狂言開きを行いました（6年生）

1学期の着任式で、児童会の代表が、「・・・平荘小学校では、6年生になると狂言発表会があります。そして、狂言発表会で自分の力を精一杯出し切るために、日々の学習の中で、相手に聞こえる声で意見を言ったり、みんなの前で発表したりして伝える力をのばせるようがんばっています。・・・」とあいさつをしてくれました。

6年生になると、3学期に狂言発表会があり、それが本校の伝統として息づいていることがわかりました。狂言学習を通して、先輩から後輩へと引き継がれている平荘の心を今年度も大切に、次年度へと引き継いでいってほしいと願っています。

平荘小学校の狂言学習は、今年度で21年目を迎えます。ここまで長く狂言学習を続けることができたのは、能楽の重要無形文化財保持者の山口耕道先生をはじめ、平荘狂言教室後援会や地域の方々への支えのおかげです。本校の狂言学習を支えてくださっている多くの方々に感謝をしながら、11月12日（金）に、6年生は、狂言開きを行いました。

最初に、担任の尾上先生と昨年度6年生を担当していた田中先生から、今年度の6年生に、狂言学習についての話をしました。それから、昨年度の6年生の狂言学習発表会のDVDを視聴しました。



平荘小学校6年生
狂言学習総まとめ
有終の会

狂言開き(先生の話より)

今から、狂言開きをします。これから、昨年度の6年生の狂言総まとめのDVDを観ます。

観ると演じるとでは、大きく違います。今の中学1年生は、すごいプレッシャーの中、大変な思いを持って狂言の練習をしてきました。今までとは違う難しさがありました。

去年の6年生は、先輩の狂言を実際に観て、狂言を引き継ぎました。

今年の6年生は、昨年度の先輩（6年生）の狂言を実際には観ることができていません。**昨年度の6年生は、5年生にどうしても引き継ぎたいという思いで狂言を演じました。**

狂言の練習では、かなり厳しい場面があります。昨年度の6年生は、歯を食いしばりながら、次の6年生に引き継がないといけないと一生懸命に練習をしました。

《狂言開き 先生の話（続き）》

きびしい言葉ですが、当日失敗したら、失敗です。しかし、これだけは言えることがあります。歯を食いしばって頑張った練習は、マイナスにはならないということです。

狂言は、リレー形式で演じていきます。自分だけが輝けばいいのではありません。自分だけが輝く演技は、評価されません。一生懸命に、真面目に、こつこつと努力している人が評価されるのです。

声が小さい人が注意されるわけではありません。自分の全てを出さない人は注意をされます。

狂言は、そんなに簡単にはクリアできません。

先生たちは、6年生を全力でサポートします。わからないことがあれば、先生に相談してください。6年生のみなさんも、お互いに支え合って、これからの3か月間、頑張ってください。



《山口耕道先生》



猿唄の様子

『有終の会』を視聴して（児童の感想）

- 今までは、ただただ面白いと思っていましたが、いざ自分たちが演じないといけないと思うと、ドキドキします。先輩は、すらすらとセリフを言ってすごいなと思いました。
- セリフが長いなあと思いました。動きもできるかなあと思いました。
- 1～4年生までは、狂言を普通に面白いなと思っていましたが、6年生はいろいろなことを覚えないといけない。大変そうだなあと思いました。



- 観ている人がいて緊張すると思うけど、みんな、大きい声でスラスラ言えていてすごいなと思いました。
- 毎日練習をしてすごいな。自分もできるかなと思いました。